

## 催し物のご案内 (1月～3月)

### 観察会・講座等

1. 野外観察「地形ウオッチング」  
 [南足柄市足柄峠]  
 日時：1月10日(土) 10:00～15:00  
 対象：小中学生とその保護者50名(抽選)  
 募集：12月2日(火)～12月23日(火)

2. 研究テクニク講座  
 「図鑑を作ろう—魚編—」[博物館]  
 日時：1月18・25日(日) 9:30～16:00  
 対象：18歳以上10名(抽選)  
 募集：12月2日(火)～12月23日(火)

3. 公開講演会「カキ(牡蠣)の生活と進化—岩礁生物が底泥で生きる知恵—」  
 [博物館] (共催:日本古生物学会)  
 講師：大阪学院大学教授・鎮西清高  
 日時：2月1日(日) 13:30～15:00  
 対象：一般200名  
 募集：12月23日(火)～1月10日(火)  
 普通はがきでお申し込みください。

4. 「大地の生い立ちを探るII」  
 [博物館と野外(厚木市相模川など)]  
 日時：2月7日(土)・8日(日)・14日(土)・15日(日)  
 対象：一般20名(抽選)  
 募集：12月23日(火)～1月20日(火)

5. 野外観察「モンキーウオッチング」  
 [小田原市入生田]

日時：2月14日(土) 10:00～15:00  
 対象：小中学生とその保護者30名(抽選)  
 募集：1月6日(火)～1月27日(火)

6. 野外観察「岩石ウオッチング」  
 [小田原市入生田]  
 日時：3月14日(土) 10:00～15:00  
 対象：小中学生とその保護者30名(抽選)  
 募集：2月3日(火)～2月24日(火)

7. 博物館スクール「博物館探検隊」[博物館]  
 日時：3月28日(土) 10:00～15:00  
 対象：小中学生40名(抽選)  
 募集：2月17日(火)～3月10日(火)

応募方法：往復はがきに参加行事名、参加代表者の住所、氏名、電話番号(連絡先)、参加する人と全員の氏名と年齢(学年)を明記して、お申し込みください。応募多数の場合は抽選となります。

「身近な自然発見講座」  
 毎月第3水曜日に、一般の方を対象に、博物館周辺での自然観察や館内での実習・実験をする身近な講座を開催しております。参加費は無料ですが、バス代・電車賃が必要なことがあります。事前の申込みはいりません。当日、歩きやすい服装で、博物館正面玄関にお集まりください。雨天の時は中止します。持ち物：筆記用具、ルーペ、昼食、水筒、雨具、双眼鏡など

## 特別展のご案内

### 「日本の魚学・水産学事始め—フランツ・ヒルゲンドルフ展—」

平成10年2月1日(日)～3月31日(火)  
 <開催中、毎週月曜日と2月12・19日(木)は休館>

フランツ・ヒルゲンドルフ(Franz M. Hilgendorf, 1839-1904)は、1873(明治6)年から1876年まで東京医学校(東京大学医学部の前身)で博物学を教えていた、いわゆるお雇い外国人です。博物学の講義のかたわら、魚類をはじめ、日本の動植物を精力的に採集し、研究をおこないました。特に江ノ島を中心に、相模湾は、彼が最も熱心に採集を繰り返した場所の一つです。今回、ベルリンのフンボルト大学自然史博物館に眠っていた膨大な資料の一部が日本に里帰りし、ヒルゲンドルフと関係の深い神奈川で、その資料を紹介することができるようになりました。それにあわせ、ヒルゲンドルフゆかりの日本の魚たちも紹介します。

観覧料 20歳以上：200円  
 20歳未満・学生：100円  
 高校生以下・65歳以上：無料

### 特別展記念講演会

特別展「日本の魚学水産学事始め—フランツ・ヒルゲンドルフ展—」の内容に関連する研究やトピックス、魚にまつわる様々な話題を紹介いたします。

2月11日(祝)

「これからの食品のあり方—かまぼこを通じて考えること」  
 講師：鈴廣かまぼこ(株)代表取締役 鈴木博晶

「日本の魚ブーム」  
 講師：館長 濱田隆士

3月21日(祝)

「ヒルゲンドルフの人と業績」  
 講師：東京成徳学園短期大学講師・高等学校教諭 矢島道子  
 「相模湾の魚の研究—開かれた博物館の新しい取り組み」  
 講師：学芸員 瀬能 宏

### 特別展図録先行発売中

特別展の開催に先立ち、図録を先行発売しています。お求めはミュージアムショップで、価格は1,000円です。相模湾に生息する魚のカラー写真も多く、特別展観覧の必携の書です。

## ライブラリー通信

## レッドデータブックにさよならを!

日本国内や近海に生息する哺乳類のうち、約半数の85種が絶滅の危機に瀕していることが日本哺乳類学会の調査でわかりました。イリオモテヤマネコ、ニホンカワウソ、アマミノクロウサギ、ヤマネ等が絶滅危惧種や危急種に挙げられています。この結果は『レッドデータ 日本の哺乳類』(文一総合出版)として出版されるようですが、最近、レッドデータ関係の出版物が多くなってきた気がします。

環境庁も8月に植物と両生類・爬虫類のレッドリストを公表しました。「植物版レッドリスト」は日本にある種の5分の1が、絶滅の危険にさらされているという現状を浮彫りにしています。また、地域別のレッドデータ作りも始まっています。神奈川県版は当館が1995年に『神奈川県レッドデータ生物調査報告書』としてまとめてあります。埼玉では『さいたまレッドデータブック』(埼玉県)、三重では『自然のレッドデータブック・三重』(三重県教育文化研究所)、そして、兵庫は『ひょうごの野生植物』(神戸新聞総合出版センター)、近畿では『近畿地方の保護上重要な植物』(関西自然保護機構)等々が出版されています。

分野別では『植物群落レッドデータ・ブック』(アポック社出版局)、『レッドデータプランツ』(宝島社)、『日本の絶滅危惧植物』(農村文化社)、『レッドデータアニマルズ』(JICC出版局)、変わったところでは『日本の地形レッドデータブック』(日本の地形レッドデータブック作成委員会)というものもあります。これではレッドデータブックの“絶滅”なんて、とても有り得そうもないですね。

(司書・土屋定夫)